

# まごころ通信

平成17年7月15日発行

第1号



## 主な内容

北広島町社協スタート	1
会長挨拶	2
合併の経緯・役員紹介	2
平成16年度決算報告(旧町ごと)	3
組織図・業務紹介	4
まごころ(浄財寄付)	5~6

北広島町社協スタート!

 社会福祉法人 北広島町社会福祉協議会

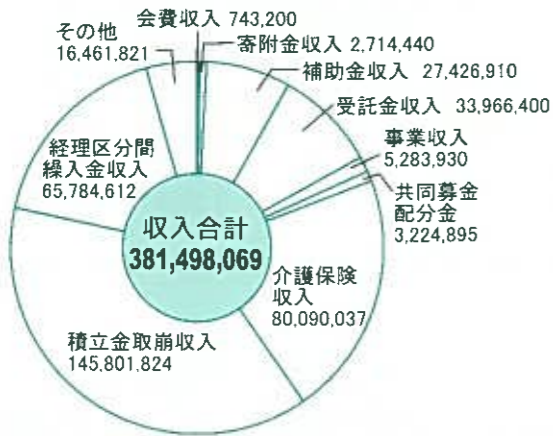
- 本所・大朝支所 〒731-2104 広島県山県郡北広島町大朝2513-1  
北広島町大朝福祉センター内  
電話(0826)82-2680 FAX(0826)82-2778
- 芸北支所 〒731-2322 広島県山県郡北広島町細見161  
電話(0826)35-0144 FAX(0826)36-3013
- 千代田支所 〒731-1533 広島県山県郡北広島町有田504  
電話(0826)72-4670 FAX(0826)72-7071
- 豊平支所 〒731-1711 広島県山県郡北広島町戸谷1088-1  
電話(0826)83-0050 FAX(0826)85-0005

## ●新町社協開所式●

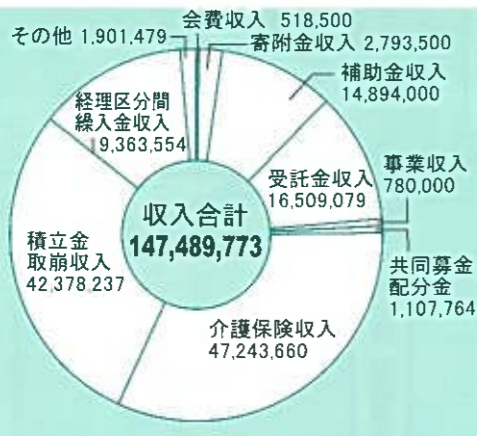
平成17年4月1日、北広島町社会福祉協議会本所において、北広島町長、来賓出席のもと、開所式を挙行了しました。

# 平成16年度旧町ごと決算報告

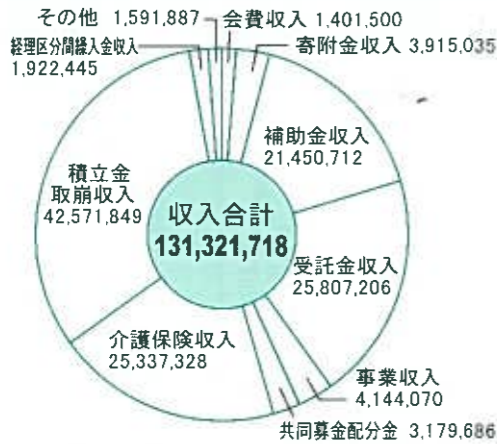
## 芸北



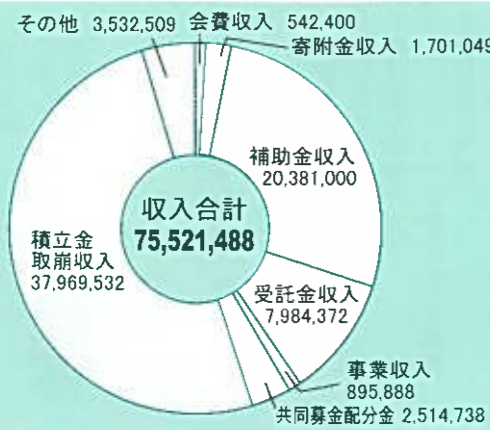
## 大朝



## 千代田



## 豊平



## 幸せを求めて

北広島町社会福祉協議会

会長 寄光 旭

北広島町社会福祉協議会が四月一日に発足し、第一号の公報を発行するにあたり、役員一同、改めて就任のご挨拶を申し上げます。

新町社会福祉協議会は、行政合併と同じく、非常に広い面積となり、それに伴い人口も増加した現実のもと、これまで各々培ってきた「幸せを実感する町」の福祉目標を、今一層の団結心をもって高揚、進展していきたいと考えています。

現在各地の個別的に行っている「ふれあいサロン」「地区社協活動」等の、地域住民参加型の福祉活動を検証し、提供メニューを再編強化し、住民にわかりやすく、参加し易い活動の展開を図り、結果として、住民が生きがいを感じ、安心を得、乳幼児から高齢者まで、障害のある人も、健常者も全住民が幸せを実感できる社会の実現に努力を重ねます。

社会福祉協議会の役割は、社会福祉の中心的役割を担い、地域住民、社会福祉関係者等の参加・協力を得て活動していますが、民間組織としての「自主性」と、広く住民や、社会福祉関係者に支えられた「公共性」という二つの側面をあわせもった公

共団体であるという自覚を一層強くします。

更に、各事業の細部にわたり十分な検討を加え「住民参加・協働による福祉社会の実現」「地域に根ざした利用者本位の福祉サービスや、総合的な支援体制の確立」等々、課題の把握と、事業へのたゆみない挑戦を続け、合併による福祉の後退がないよう、住民一人一人に「住んでいて、よかった地域やまち」を肌で感じていただけるような形に具体化していきます。

また、皆様の厳しいご指導、ご意見もお待ちしております。

## 役員紹介

皆様の社協です。本所および三支所の近くにおいでの際は、気軽にお立ち寄りください。ご健勝とご多幸を祈念します。

- 平成十七年四月八日、次のとおり理事、監事を選任する。
- |     |        |
|-----|--------|
| 会長  | 寄光 旭   |
| 副会長 | 福原 光文  |
| 理事  | 上手 登   |
|     | 高橋 平信  |
|     | 室屋 守   |
|     | 佐伯 秀夫  |
|     | 六信 来   |
|     | 藤田 千紀枝 |

- |    |       |
|----|-------|
| 監事 | 西村 敏朗 |
|    | 小川 龍馬 |
|    | 泉 ヤエ子 |
|    | 西田 見信 |
|    | 小田 久雄 |
|    | 白砂 耕作 |
|    | 栗栖 幸徳 |
|    | 豊田 正角 |

- |      |       |
|------|-------|
| 山下 智 | 岡本 洋  |
| 杉本 美 | 松丸 絹  |
| 田江 貞 | 梅田 貞  |
| 宮田 秀 | 森田 憲  |
| 森田 憲 | 田邊 俊  |
| 宮田 秀 | 尾升 明  |
| 梅田 貞 | 中野 トモ |
| 松丸 絹 | 榎野 隆  |
| 田江 貞 | 榎野 隆  |
| 梅田 貞 | 榎野 隆  |

- 以上のとおりであります。よろしくお願いたします。
- |      |       |
|------|-------|
| 藤井 正 | 香浦 睦  |
| 香浦 睦 | 正木 俊  |
| 正木 俊 | 室水 公  |
| 室水 公 | 清水 三  |
| 清水 三 | 板倉 守  |
| 板倉 守 | 沖野 幸  |
| 沖野 幸 | 坂本 三  |
| 坂本 三 | 竹内 昌  |
| 竹内 昌 | 梅田 トモ |

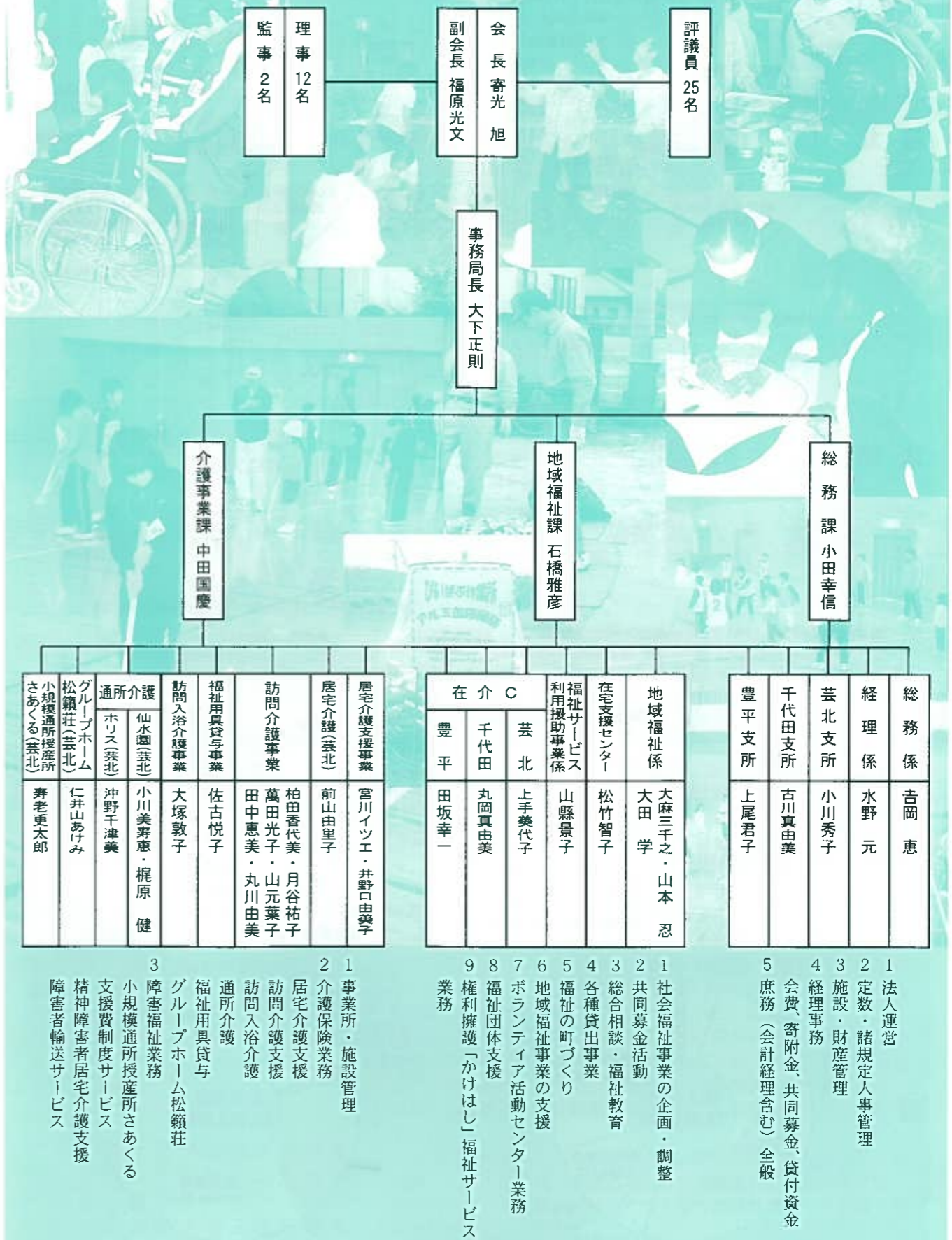
## 山県東部4町社協合併の経緯と新町社協の取り組み

近年、国・地方自治体においては、地方分権化、市町村合併などにより一層の行財政改革が進められています。社会福祉分野においても介護保険制度や支援費制度の導入による契約制度への移行など、社会福祉を取り巻く環境や制度が大きく変化しています。こうした中、市町村合併の特例に関し行政合併が進められ、社会福祉法第109条において市町村社会福祉協議会は、1又は2以上の市町村に置かれることから合併に伴いその統合を必ず行う必要がある。従って、行政合併時に社会福祉協議会も統合できるよう、平成14年4月より山県東部四町社会福祉協議会が集まり、合併準備会を立ち上げ「合併協議会」が発足いたしました。合併しても福祉の低下につながらないよう「住民が安心して暮らすことのできる明るく住みよい町づくり」を目的に数十回の調整を進め、平成16年8月に旧芸北、大朝、千代田、豊平町社会福祉協議会会長による合併調印を済ませ、平成17年4月1日に北広島町社会福祉協議会が新たなスタートをいたしました。

合併により事業区域が広域化する中、従来の事業等を継続拡充しながら地域での総合的な生活支援をはじめ、地区社会福祉協議会、住民、ボランティア、各種団体、関係機関との連携により、住民による様々な福祉活動の拠点としての役割を果たしてまいります。

さらに、創意と工夫を生かした自主事業として福祉サービスを展開し、新たな時代の要請に対応した情報提供に努めると共に、助け合いや交流の輪を広げ共に支え合う地域社会づくりに取り組んでまいります。

# 北広島町社会福祉協議会組織図



## 社協活動を支える善意銀行

明るく住みよい町づくりに役立ててほしいと、次の方々から香典返し、退院の内祝等あたたかいご寄付をいただきました。

この浄財はご趣意にそい、社会福祉事業資金として活用させていただきます。

ありがとうございます。

自 平成十七年一月  
至 平成十七年六月三十日  
(敬称略)

### 千代田地区

【香典返しにかえて】

- ◇一月
  - 石井谷 坂本美弥子 亡夫 正弘
  - 川戸 藤井力ツ工 亡夫 久司
  - 壬生 真倉 芳江 亡夫 憲雄
  - 本地 前田 雅江 亡夫 忠行
  - 有田 頼光 和雄 亡母 たね
  - 有間 島筒 和紀 亡母 藤枝

- 安芸高田市向原 玉井 瑞恵 亡母 藤枝
- 本地 砂原一之 亡母 スズミ
- ◇二月
  - 本地 田邊 美枝 亡夫 光信
  - 後有田 木本一之 亡父 正良
  - 川東 名原 恵 亡夫 達弥
  - 川東 西久美子 亡祖父 正作
- ◇三月
  - 蔵迫 堂原一弘 亡母 マツ工
  - 安佐北区真亀 藤井省一 亡母 八反田トモエ
  - 南方 橋本正人 亡妻 キヌ子
  - 川戸 大伴 正行 亡父 栄三
  - 有田 前原 武人 亡父 一
  - 川東 片岡俊弘 亡次女 美穂
  - 本地 向田 詩子 亡母 増広豊子
  - 本地 村城浩三 亡母 チヨ子
  - ◇四月
    - 有田 頼光 和雄 亡父 純三
  - ◇五月
    - 惣森 大月みさ子 亡夫 磐
    - 春木 中川瑞枝 亡母 キヨミ
    - 後有田 鷹野主照波 亡夫 範一
    - 有田 後藤 保 亡母 三重子
    - 丁保余原 服部文雄 亡母 ハナミ
    - 本地 三谷勝之進 亡妻 祐子
    - 有田 小南 昭男 亡父 弘孝
    - ◇六月
      - 川東 安田一範 亡祖母 春枝
      - 本地 金末清三 亡母 ヨシ子
      - 後有田 塚本 皓敏 亡母 保子
      - 川戸 中田 要二 亡父 幸治
      - 今田 松本 仁士 亡父 五六

- 有田 大倉 賢三 亡父 平岡康雄
- 【一般寄付】
- 蔵迫 和田フジエ 有間 千代田高等学校PTA
- 【香典返しにかえて】
- ◇一月
  - 西宗 道元 基 亡母 朝海
  - 西宗 山口 剛 亡父 幸郎
  - 都志見 高田 利春 亡子 裕子
  - 吉木 小田 一男 亡母 チヨ
  - 戸谷 川崎 末子 亡夫 勲夫
  - ◇二月
    - 阿坂 浅尾 秀夫 亡父 洋三
    - 阿坂 池田 勝則 亡祖母 サカミ
    - ◇三月
      - 戸谷 河野 弘文 亡父 待
      - 阿坂 香口 隆徳 亡父 徳夫
      - 志路原 市場 義行 亡父 光義
      - 吉木 的場 春子 亡夫 子登
      - ◇五月
        - 沼田町伴 川内和志 亡父 整
        - 西宗 川内 博幸 亡父 整
        - 戸谷 上原田 毅 亡義父 整
        - ◇六月
          - 今吉田 加藤美代子 亡子 剛
          - 中原 上鉄六秀雄 亡母 フサミ
          - 長笹 藤田 光 亡母 ミツコ
          - 吉木 鉄穴 孝子 亡夫 五六

- 【退院の内祝いとして】
- ◇一月
  - 戸谷 上原田 杜司
  - 戸谷 斎藤 勝子
  - ◇二月
    - 上石 溝下 忠視
  - ◇三月
    - 吉木 京田 康雄
    - 吉木 溜 菊美
    - 都志見 藤川 俊弘
    - ◇四月
      - 今吉田 瀬戸 義信
      - 戸谷 神後ミヨコ
      - 志路原 西田 見信
      - ◇六月
        - 戸谷 藤正美奈子
      - 【その他の寄付】
      - ◇一月
        - 吉木 若木チサミ (見舞い返しとして)
        - ◇五月
          - 下石 向田 昌弘
        - ◇六月
          - 今吉田 藤本 成樹 (亡父、護 三回忌法要に当り)
        - 大朝地区
        - 【香典返しにかえて】
        - ◇三月
          - 間所 聖尻 綾 亡父 上迫公治
          - 胡子町 六信孝三 亡三男 秀孝

安佐南区 新井久雄 亡父 磯一  
四丁目 新井 悦子 亡父 磯一

宮 迫 郷田守人 亡妻 ユキ工  
枝ノ宮 久保 和行 亡父 政行  
春木 山本 章一 亡義父 久保政行

広島市 河野美和子 亡父 久保政行  
郷ノ崎 沖 和美 亡夫 繁信  
胡子町 佐々木啓子 亡母 千代延ヨシ工

本郷 沖長澄雄 亡母 タマ子  
門前 植田 文子 亡父 吾朗  
枝ノ宮 串田 洋子 亡夫 和美

枝ノ宮 串田 康記 亡父 和美  
石川 直 亡父 串田和美  
伊藤 路葉 亡父 串田和美

宮 迫 森山 聡 亡父 串田和美  
登 山根 秀紀 亡父 秀夫

◇五月 安佐南区 半田和利 亡父 勝  
佐伯区 半田 貢 亡父 勝  
郷ノ崎 若狭 玉樹 亡父 浩三

平田 小堀 敏臣 亡父 耕作  
二丁目 若佐 健二 亡妻 照子  
登 岩見 義登 亡父 達雄

女ヶ原 増野 勝子 亡夫 秀郎  
◇六月 朝枝 藤田トシコ 亡母 森脇キクヨ

四丁目 矢部 芳彦 亡父 稔  
大塚市 石橋 富夫 亡父 長夫

境 脇本 直美 亡父 石橋長夫

篠津下 杉本 武信 亡祖母 チエミ

【退院の内祝いとして】  
◇四月 郷ノ崎 大麻 正春

◇五月 女ヶ原 長田ミユキ  
足谷 福光 秀夫

◇六月 登 田津日出子  
田原中 坂井 初枝

【その他の寄付】  
田原中 松本 渉

### 芸北地区

【香典返しにかえて】  
◇平成16年12月

◇一月 細見 吉川 賢二 亡父 静人

荒神 高野 文治 亡母ハツ工  
草安 岡本 清子 亡夫 優  
才乙 徳永 修三 亡母サナヨ

川小田 泉 正徳 亡妻 寿子  
溝口 川隅 勝文 亡父 千里  
溝口 山根喜久枝 亡夫 叢人

才乙 四郎田邦夫 亡祖母 サワミ  
◇二月 雲耕 今田 平吾 亡母コユキ

荒神 大江 繁明 亡父 明正

草安 佐田 政人 亡母 七セ  
中祖 栃敷 太士 亡父 繁  
◇三月 高野 上迫江美子 亡夫 公治

溝口 三隅ヒロコ 亡夫 満  
吉見坂 斉藤 紘一 亡母ミチヨ  
政所 上新 博則 亡父 美月

政所 岡崎 琢美 亡父 芳孝  
溝口 龍野千代子 亡夫 信男  
◇四月 溝口 吉川 定美 亡妻 里美

細見 岡本 敏昭 亡父 敏盛  
加計 佐々木和美 亡父 敏盛  
東八幡 橋詰 賀夫 亡父 正男

◇五月 細見 村竹 敏隆 亡父 馨  
溝口 川隅イチ工 亡夫 徹美  
大暮 西田 数文 亡父 博

◇六月 龜山 養老長吉郎 亡母ハナヨ  
八幡 入澤 敏貴 亡父 博

【退院の内祝いとして】  
◇一月 大利原 藤原 願正  
雲耕 上田 和枝  
草安 梅本 隆正

大暮 村口 京一  
才乙 四郎田邦夫  
◇二月 刈屋形 酒井 裕二

◇四月 川小田 宮本 健司  
刈屋形 足利 繁人

◇五月 細見 村竹 敏隆  
細見 村竹 一枝  
八幡 斉藤 巖

川小田 田中 隆男  
◇六月 八幡 入澤 敏貴  
奥中原 後藤 憲介

北広島町社協千代田支所よりお知らせ  
旧千代田町社協では発足以来、香典返しの内祝いに「茶の子」を出していたものを、「新生活運動推進」の一環として、香典返しの一部を地域の福祉事業に寄付することで返礼に代えていました。社会福祉協議会の善意銀行に寄付された方には、社協の会長から寄付の浄財の使途についての「返礼はがき」を出していましたが、この度の合併において、他の町は返礼はがきを出していないので廃止することに調整されました。

しかし、他の町には葬儀時の会葬礼状に「尚 勝手ながら香典の一部を〇〇〇にめぐり香典返しのお礼に代えさせていただきますので何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます」の一文を記載し返礼はがきに代えています。今後この方式を取りたいと思いません。ご協力とご理解をお願いいたします。

尚、北広島町社協では年三回の広報発行を考えております。その広報で善意銀行(香典返し等)にご寄付をいただいた方を『まごころ』の欄に記載し、お礼とさせていただきます。